

農業界とスポーツ界との 連携に関する勉強会

取りまとめ

令和8年9月

農林水産省



農業とスポーツの力をつなぎ、
地域の未来と人の可能性をひろげる



最初にこの勉強会のお話をいただいたとき、私は農業とスポーツが連携することで、互いの強みを生かしながら新たな価値を生み出し、ともに発展していける大きな可能性を感じました。

勉強会では、私自身のこれまでの経験をお伝えするとともに、アドバイザーとして中田英寿さんにもご参画いただき、多様な立場から活発な議論が交わされました。また、農林水産省の若手職員による「アス→ノウ」プロジェクトの活動を契機として始まった取組が、多くの関係者の熱意とご尽力によって、このたび勉強会の取りまとめ、さらにはプラットフォーム創設という新たな一歩につながったことを、大変嬉しく思っています。これもひとえに、勉強会委員の皆様をはじめ、ご協力いただいたすべての関係者の皆様のお力添えの賜物です。座長として、心より感謝申し上げます。

農業とスポーツは、ともに地域に根ざし、人と人をつなぎ、地域の未来を支える存在です。その共通の基盤に、メジャースポーツが持つ発信力や求心力も生かしながら、両者の連携がさらに広がり、地域に新たな活力を生み出していくことを期待しています。

本プラットフォームが、多様な主体を結び付け、新たな挑戦が次々と生まれる場として発展していくことを願うとともに、私自身もその活動を引き続き応援してまいります。

2026年 9月
農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会 座長 村井 満

勉強会の歩み

- 2024年 7月 「アス→ノウ」プロジェクト始動
 - ー政策OpenLabから若手職員を中心に立ち上げ
 - ー農業×スポーツの事例調査開始
- 2025年 8月 第1回開催
- 2025年 9月 第2回開催
- 2025年11月 第3回開催
- 2026年 7月 第4回開催（取りまとめ）



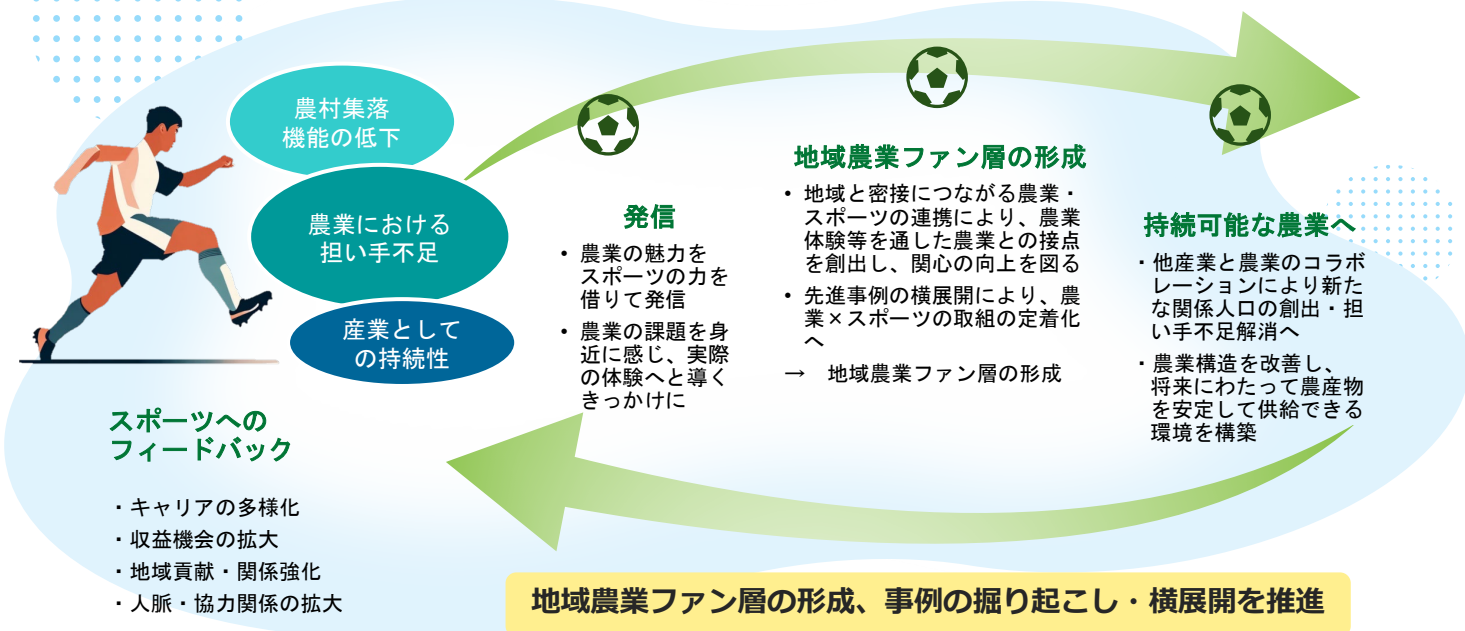
「アス→ノウ」プロジェクトで収集した事例
(2026年7月23日時点)

今後の方向性

- 1 農業への関心・理解を深める裾野拡大の取組
- 2 就農後のキャリア・生活実態の見える化と安心して農業を選択できる環境整備
- 3 アスリートの農業への関心喚起と多様な関わり方の提示
- 4 農業×スポーツによる社会的ムーブメントの創出と、連携基盤となるプラットフォームの形成
- 5 効果的な情報発信による機運醸成と統一ブランド化の推進
- 6 プラットフォームで実施する取組の円滑な実施に向けた運営体制の確立

プラットフォームの創設

農業界とスポーツ界の連携で、 新たな価値と未来を創出！



主な取組内容

- 1 特設サイトの立ち上げ**

「農業×スポーツ」の取組事例を紹介するほか、就農支援情報やイベント開催情報を掲載する
- 2 発足に向けた広報活動**

プラットフォームの発足に向け、事例の紹介や動画・ポスターの作成、各種SNSを活用した情報発信等の断続的な広報活動を実施する
- 3 各種イベント**

広報活動と並行して、プラットフォームの機運醸成・認知度向上に向けた関連イベントへ参加するとともに、立ち上げイベントを実施する
- 4 各地域での農業体験**

部活の合宿／スポーツイベントにきた学生アスリートやチーム等に、食育を入口として食への関心を喚起した上で、農作業体験から食体験までの機会を提供する
- 5 キャリア講習会**

指導者・アスリート・チームを対象に、現役中から農業についての情報を得られる講習会を開催する
- 6 新・農業人フェアでのPR**

「農業×スポーツ」の取組の事例紹介を行うブース展示や、元アスリート農業者によるセミナー開催を含む、アスリートを対象としたPRの場を設ける
- 7 ブランドロゴの活用**

本プラットフォームのブランドロゴを活用し、農業×スポーツの連携の取組を広く発信・PRする
- 8 令和9年度以降に予定する取組**
 - ・他プラットフォームとの連携
 - ・アワードの開催
 - ・会員同士のマッチング交流会
 - ・体育学生向けの講義

本プラットフォームは、農業界とスポーツ界の連携を通じて、
持続可能な地域づくりと新たな価値の創出を目指します。

競技で培った力を
地域農業の力に！

アスリートの 就農 事例紹介！

事例 01

丹野 朝香 氏

元ソフトボール実業団選手



栽培品目

スイカ、野菜など



栽培地域

山形県
尾花沢市、大石田町



就農年数

2012年～

取組概要

- ✓ 元々は関東の実業団ソフトボールチームで活躍していたアスリート。選手引退後に**地元山形にUターン**し、知人からの紹介がきっかけで米農家に研修に。
- ✓ 独立する際には、既にブランドとして確立しており、生計の立てやすい**「尾花沢スイカ」**を中心とした畑作に路線変更。
- ✓ 収穫した農産物は、選手時代の繋がりを活用して**ネット販売**を行う。



事例 02

esDGz.OTAKI.EXE

プロバスケットボールチーム（3×3）



栽培品目

米、タケノコなど



栽培地域

千葉県大多喜町



就農年数

2021年～

取組概要

- ✓ プロスポーツ選手の**デュアルキャリア開拓と大多喜町の活性化**をテーマとして立ち上がった3人制プロバスケットボールチーム。
- ✓ 選手は競技活動のほか、耕作放棄地となった田んぼを借りて、**田植えから稲刈りまでの農業にも従事**。
- ✓ 収穫したお米は**オリジナルブランド米「籠米」**として販売し、過疎化する地域の知名度向上や農業振興に貢献する。



お問い合わせ先

農業界とスポーツ界との連携に関する勉強会事務局

農林水産省 経営局 就農・女性課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関一丁目2番地1号

代表：03-3502-8111

ダイヤルイン：03-3502-6469（9:30～12:00/13:00～18:00）

<https://www.maff.go.jp/j/study/250731.html>

ウェブページは
こちらから

